

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
中央農業総合研究センター北陸研究センター

「しごとづくり部会」に関わる北陸研究センターの業務と予定行事について

1. 研究センターの業務と地域産業への貢献

当研究センターでは、北陸地域の農業および関連する食品産業に役立つ作物品種（水稻、大麦）の育成と生産技術の開発を行っています。こうした新品種・新技術開発を通じて、地域農業や食品産業等の競争力強化に貢献したいと考えています。これまで開発した中でとりわけ上越市や上越地域に関係深いものとして、①食味と外観品質が優れた水稻品種「みずほの輝き」（JA えちご上越、上越市のご尽力により市内約 600ha 作付）、②米めん用水稻品種「越のかおり」（市内(株)自然芋そば様から米麺製品として加工・販売）、③寿司米に適した水稻品種「笑みの絆」（寿司米適性について市内飲食店屋様からご協力）、④湿害に強く水田転作大豆に適した耕うん同時うね立て播種技術（上越市内の大豆栽培にも広く普及）などが挙げられます。

これらの技術は皆、上越の農家、行政・農業団体、産業関係者のご協力により開発し普及が進んでいます。今後とも、こうした活動により農業など地域産業の発展と強化に貢献できれば幸いです。

2. 「しごとづくり部会」に関わる研究センターの行事と内容

上で紹介した品種・技術開発業務での貢献以外に、当センターで年間を通じて行っている各種の行事等を通じて、下記の仕分けのように「しごとづくり部会」の取組に貢献できるのではないかと考えます。その具体的内容と部会取組における位置づけについては別紙に整理しました。

※ 「しごとづくり」部会で検討する取組と当センターの貢献

- ①雇用対策：残念ながら直接貢献できる取組はございません。
- ②人材育成：高度な技術を有した農業者・農業後継者育成で貢献
子供、一般市民の農業理解を深めるという幅広い人材育成面で貢献
- ③産業競争力強化：市内農業の競争力、産地競争力の強化・向上に貢献



NARO

農研機構

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

■国立研究開発法人 農研機構 とは？



■農研機構のなりたち

現在、農研機構の中には本部と14の研究所等があり、全国各地で農業に関する研究開発や普及をおこなっています。2001年、国の12の研究機関を再編し「農業技術研究機構」として発足。さらに統合を進め、2006年に現在の「農業・食品産業技術総合研究機構」となりました。傘下の各研究所は、公的な農業研究機関としてもっとも深く長い歴史があります。

■農研機構の役割

私たち農研機構は、第3期中期目標期間（2011～2015年度）において、「農林水産研究基本計画」や「農林水産研究における原発事故への対応方針」などの新たな研究計画に基づき、『①農業・食品産業技術に関する研究』、『②生物系特定産業技術に関する基礎的研究の推進及び民間研究の支援』、『③農業機械化促進のための高性能農業機械等の開発・改良及び検査・鑑定』などの業務を推進しています。このことにより、食料・農業・農村が直面する様々な問題の解決と、国民が期待する社会の実現に貢献していきます。

■どこで研究をしているの？

農研機構は、農業に関する多分野をカバーする全国組織です。

- 本部・研究所等
- 研究拠点



北陸研究センターは、全国ネットワークを生かして、北陸各県の研究技術開発をサポートします。

本部および研究所の多くは、茨城県つくば市にあります。また、南北に細長い日本の多様な気候風土や地域性に合わせた農業技術の開発を進めるため、全国各地にも研究所や研究拠点が置かれています。中央農業総合研究センター（中央農研）は、関東東海北陸地域を担当するとともに、全国および世界レベルの視点から研究開発活動を展開しています。

■北陸地域を担当しているのが、中央農研・北陸研究センター（新潟県上越市稲田 1-2-1）

中央農業総合研究センター北陸研究センターの育成品種

(国) 農研機構・中央農業総合研究センターでは、良食味で栽培特性に優れる水稲品種はもちろん、用途に適した特性を持つ多様な品種を育成しています。さらに、高品質で栽培しやすい大麦品種の育成も行なっています。また、過去にはそばの品種改良も行なっていました。これらの新品種は、北陸農業の基盤を支えるとともに、6次産業化の素材等としての活用が期待されます。

品種名 公表日 概要 (近年の主な育成品種のみリストアップ)

「和みリゾット」 2013年10月8日

大粒でリゾットへの調理適性があり、倒伏に強く栽培しやすい品種である。「和みリゾット」により、国産のリゾット用米の普及が期待される。新潟県内、全国各地で取り組みが急増中。

「ゆきみのり」 2013年8月30日

「ゆきみのり」は寒冷地南部では早生で、米菓加工適性が高い多収の糯系統である。加工用糯米としての利用が期待されている。新潟県産米菓の原料として作付けが拡大中。

「笑みの絆」 2011年8月19日

水稲「笑みの絆」は寒冷地南部では中生に属し、高温耐性が強く、粘りが少なく硬めの良食味品種で、寿司米への利用が期待される。さっぱりとした食感と高温耐性が注目されている。

「楽風舞」 2011年8月19日

水稲「楽風舞」は寒冷地南部では早生に属し、高度精米耐性を有する酒造用品種である。製造酒の酒質は、清酒では淡麗、泡盛では軽快で華やかに仕上がる。

「越のかおり」 2008年8月5日

「越のかおり」は、寒冷地南部では中生の早に属する粳種で、日本型で、やや短稈、偏穂重型の高アミロース米の製麺用品種である。製麺時の麺離れが良く、麺への加工適性が高い。

「みずほの輝き」 2008年8月5日

「みずほの輝き」は、寒冷地南部では晩生の晩に属する粳種であり、良質で「コシヒカリ」並の極良食味である。炊飯米の外観が良いため、加工米飯やおにぎり等への適性が期待される。「JA えちご上越」管内で作付けがのび、上越オリジナルブランド米として好評を得ている。

「華麗舞」 2006年11月17日

「華麗舞」は寒冷地南部では中生の早に属する細長粒の粳種で、短稈、穂重型の品種である。炊飯米は、表面の粘りは少ないが、内部は「コシヒカリ」並に軟らかいという米飯物性を示す。日本で市販されているとろみのあるカレールウと良く合い、カレー用調理米飯としての用途が期待される。

「とよむすめ」 2004年2月3日 (そば)

そば「とよむすめ」は草丈が高く、主茎節数が多く、分枝数・1株花房数は中で、直立分枝伸長型の草型を持ち、生態型は中間型である。多収でルチン含量がやや高い特性をもつ。上越地域を代表するそば品種として栽培が広がっている。

別紙

○北陸研究センターの年間行事等と「しごとづくり部会」への貢献

北陸研究センター

部会取組みテーマ:「地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする」

- ①雇用対策
- ②人材育成
- ③産業競争力強化

取組み	平成27年度 取組時期	内容	期待される 貢献	参考資料
食と農の科学教室	6月30日(火) ～7月3日(金)	上越市及び周辺地域の小学生を対象とした、イネの話(講演)、もみすり体験、変わったお米の試食、めずらしいイネ品種の田んぼ観察、農業機械の見学など農業・科学に関する体験学習。	②	・平成27年度開催 プレスリリース資料 ・これまでの開催 実績
研究所見学	随時	団体、学校等の申込みによる所内見学	②	
一般公開	8月22日(土)	研究所の一般公開。品種育成や栽培・作業技術開発、防除技術開発、基盤技術開発など所の研究活動を紹介する。所内ウォークラリー、DNA抽出実験・顕微鏡観察、試食等の体験コーナー、ミニ講演会など。	②	・平成27年度一般 公開チラシ(原案) ・平成26年度来場 者数
高田農業高等学校所内見学	7月10日(金)	高田農業高等学校からの依頼に基づき、一年生の農業学習や農業感の育成のため、農業技術開発に関する訓話と所内見学を行う。	②	
大豆現地研修会	5月21日(木)	上越市を含む地域の大豆生産者を対象とした技術研修会。新潟県上越地域農業振興協議会主催、北陸研究センター共催で平成26年から実施。	②③	
北陸地域マッチングフォーラム	11月～12月 (予定)	北陸地域を対象とした農業技術成果普及のためのイベント。平成27年は上越市内で大豆作新技術をテーマに開催を予定。	②③	・平成24年度開催 ポスター
出前技術指導	随時	水稲、麦、大豆など水田作に関係する新技術について、行政・普及組織・生産者等の求めに応じて現地に出向いて技術指導する。	②③	
技術相談	随時	農業生産者等からの技術相談(電話・メール等)に研究者が随時対応する。	②③	

ポイント

- ・「食と農の科学教室」を、6月30日(火曜日)から7月3日(金曜日)の4日間開催します。
- ・小学生を対象に、実験や観察などを通じて楽しみながら農業の大切さと科学の役割を学んでもらう体験型の授業です。

概要

農研機構 中央農業総合研究センター北陸研究センターでは、地域に根ざした取り組みとして、上越市及び周辺地域の小学生を対象に、毎年「食と農の科学教室」を開催しております。今年も開催をご案内したところ、小学校5年生を中心に14校(約530名)の参加申込みをいただきました。内容は、イネの話(講演)に加えて、もみすり体験、変わったコメの試食、変わったイネ品種の田んぼ観察、農業機械の見学など、実験や観察などを通じて楽しみながら農業の大切さと科学の役割を学んでもらう、体験型の授業です。つきましては、当日は是非とも取材にお越しいただき、紙面、番組等でご紹介いただければ幸いです。

開催日

平成27年6月30日(火)～7月3日(金)

開催場所

北陸研究センター 研究技術情報棟 (新潟県上越市稲田1-2-1)

お問い合わせ(広報担当者)

農研機構 中央農業総合研究センター 北陸研究センター
連絡調整チーム 桑原 秀洋

Tel 025-526-3215 Fax 025-524-8578 E-mail hrc-info@naro.affrc.go.jp

詳細情報

【参考】昨年度の「食と農の科学教室」の様子

昨年度は、平成26年7月1日から4日までの4日間開催し、上越・妙高地域の小学校16校(約500名)の参加がありました。体験学習では、手作りの道具によるもみすり体験や変わったイネ品種の田んぼ観察、農業機械の見学など「いかに楽しく体験してもらうか。」を心がけた結果、参加した皆さんから「楽しかった」の声を聞きくことができました。

体験や観察などを通じて楽しみながら農業の大切さと科学の役割を学んでもらい、当センターを知ってもらう大変良い機会になりました。



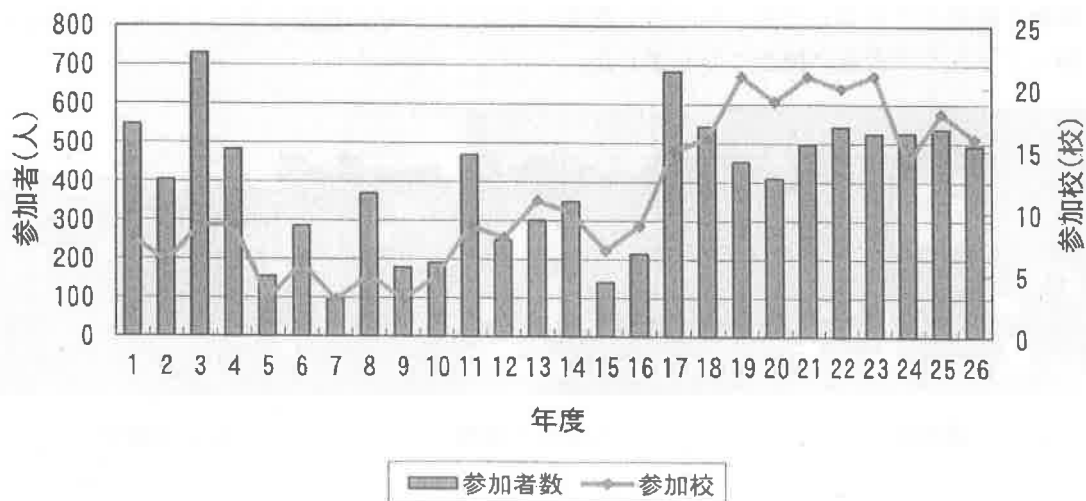
講演会

もみすり体験

田んぼ観察

開催年度	実施講座数	年度	参加者数	参加校	参加校
平成元年度	6	1	546	8	4小学校、4農業高校
平成2年度	6	2	404	6	5小学校、1農業高校
平成3年度	10	3	729	9	7小学校、2農業高校
平成4年度	8	4	483	9	7小学校、2農業高校
平成5年度	3	5	156	3	2小学校、1農業高校
平成6年度	6	6	286	6	5小学校、1中学校
平成7年度	4	7	95	3	2小学校、1中学校
平成8年度	6	8	370	5	2小学校、3高校
平成9年度	3	9	179	3	3小学校
平成10年度	5	10	191	5	5小学校
平成11年度	14	11	470	9	9小学校
平成12年度	13	12	250	8	8小学校
平成13年度	9	13	301	11	9小学校、2農業高校
平成14年度	14	14	349	10	10小学校
平成15年度	7	15	141	7	6小学校、1中学校
平成16年度	10	16	215	9	9小学校
平成17年度	15	17	684	15	15小学校
平成18年度	10	18	542	16	16小学校
平成19年度	16	19	452	21	20小学校、1中学校
平成20年度	8	20	410	19	19小学校
平成21年度	4	21	496	21	21小学校
平成22年度	4	22	541	20	20小学校
平成23年度	1	23	524	21	21小学校
平成24年度	1	24	525	14	14小学校
平成25年度	1	25	537	18	18小学校
平成26年度	1	26	492	16	16小学校

185 講座数 10,368 参加者数 292 参加校数 (内訳)
 高校 15
 中学校 4
 小学校 273



北陸研究センター

遊びに来てね!

一般公開

入場
無料

駐車場あり

～科学から技術へ 研究成果を田畑へ・食卓へ～

8月22日土

9:30～15:30まで (受付は15:00で終了)

プレゼント!
そばもやし試験キット、
ハクサイの苗、ボン菓子、
くん炭 など

物産品の販売など
盛りだくさん
試食やプレゼントは
多数用意しておりますが、
なくなったら終了します。



お米食品を食べてみよう!

試食コーナー

「笑みの絆」で作った

ちらしずし

「みずほの輝き」

アイスもあるよ!



米粉パンの販売
ボン菓子の実演



※写真はイメージです

体験してみよう!

DNA抽出実験

(希望多数の場合は応じられない場合があります)

研究成果の展示

(新品種・新技術のパネル、実物展示)

顕微鏡観察

風起こし体験

タネ運びゲーム

粘土で遊ぼう [粘土の型抜き]

ウォークラリー

農業機械と記念撮影 など



ミニ講演会 各30分程度

10:00～

牛も喜ぶ、飼料用のイネについて

11:00～

～食べ方いろいろ～

からだに良い大麦のはなし

12:00～

～期待の新品種登場～

北陸の大豆のはなし



案内図
Map



お申し込みはこちら



農研機構

中央農業総合研究センター

北陸研究センター 連絡調整チーム

〒943-0193 新潟県上越市稲田1-2-1

TEL 025-526-3215 FAX 025-524-8578

■最寄駅：えちごトキめき鉄道 妙高線 稲田駅 徒歩約2Km ■路線バス：稲田2丁 徒歩約5分

北陸研究 | 検索



■自動車：北陸自動車道上越ICより西へ4Km

2015年

平成26年度一般公開来場者集計

開催日時： 平成26年8月23日(土) 9:30~15:30

区分		人数	合計	備考
来場者	大人(中学生以上)	496	650	
	子ども	154		
地域別	上越市内	552	650	
	県内	89		
	県外	9		
職業別	会社員	92	496	団体 JA胎内市 上野田農家組合 新潟大学 報道 新潟日報社 日本農業新聞 上越タイムス社
	農業	76		
	主婦	83		
	公務員	25		
	その他(自営・無職)	190		
	大学生	23		
	高校生	2		
	中学生	5		

入場
無料

平成24年度 北陸地域マッチングフォーラム

多様な品種と技術が拓く北陸農業の 新展開—6次産業化—

研究成果発表

日時 **11月29日 日 末**
13:00~17:15

場所 **ホテル
センチュリーイカヤ**
(新潟県上越市)

案内図 Map



北陸地域における6次産業化をめぐる状況

農林水産省 北陸農政局 経営・事業支援部 大槻清隆

中央農業総合研究センターが育成した新規需要米品種とその特徴

(独)農研機構 中央農業総合研究センター 山口誠之

新潟県における米粉の製造技術と利用技術の開発

新潟県農業総合研究所食品研究センター 諸橋敬子

有機酸を利用したリンゴの果皮に含まれる色素抽出法

石川県農林総合研究センター農業試験場 三輪章志

短葉性ネギの開発とブランド化の取り組み

富山県農林水産総合技術センター園芸研究所 西畑秀次

六条大麦による地ビール開発とブランド化の取り組み

福井県食品加工研究所 佐藤有一

黒大豆品種「クロタマル」を活用した農商工連携・6次産業化の展開と成功のポイント

(独)農研機構 九州沖縄農業研究センター 後藤一寿

総合討論

研究成果の展示と技術相談

■主催／農林水産省農林水産技術会議事務局、北陸農政局 (独)農研機構 中央農業総合研究センター

■お問い合わせ



中央農業総合研究センター
北陸研究センター 連絡調整チーム

〒943-0193 新潟県上越市稲田1-2-1 TEL 025-526-3215

北陸研究！

